

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

|       |              |
|-------|--------------|
| 施設番号  | 66-0581      |
| 施設名   | 杉並の家保育園      |
| 施設所在地 | 杉並区浜田山4-31-5 |
| 法人名   | 社会福祉法人けいわ会   |

### 1. 活動のテーマ

#### <テーマ>

蟻の巣キットで蟻の巣作りを観察しよう。

#### <テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

テーマが蟻に決まり、蟻について深く知ろうと、子ども達から疑問に思う事を挙げてもらった。その中に「蟻の巣の中はどうなっているのだろう」「蟻の好きな食べ物は何だろう」という疑問が出てきたので、それをテーマに設定した。

### 2. 活動スケジュール

蟻の好きな食べ物を予想し、各グループで話し合う。グループで選んだ食べ物を持って戸外へ行き、公園で蟻の巣の近くに置く。数分おきに確認し、蟻が集まっていたら袋に捕まえる。園に帰ったらキットに入れ、数日観察する。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

子どもが予想した食べ物を用意した。また、事前に蟻が沢山いる公園を見つけ、その公園で行えるように環境を整えた。

蟻の巣キットは事前に開封し、子ども達と作っておいた。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

今回は「蟻の巣を作り、蟻の気持ちを体験する」事を子ども達に伝え、用意した素材や道具を紹介する。簡単に段ボールの繋ぎ方や道具の使い方を伝え、蟻の巣を作り始める。20分ほどで完成したので、2グループに分かれて蟻の巣を体験する。体験後、全員で振り返りを行った。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

蟻の好きな食べ物を予想する際には「甘いもの」を中心に飴や砂糖、バナナを挙げるグループが多かった。保育者は援助を行わず、自分たちで考え、自分達で餌を設置した。「飴はそのまま置くよりも、舐めた方が良さそう」「同じ甘い物でも砂糖はあんまりだな～。砂糖水の方がいいのかな。」「バナナは大人気だ!」等、新しい発見が沢山あった。また、蟻が見つからないグループがいて「僕たちの餌分けてあげるよ。」「この辺良さそうだよ」と互いに声を掛け合い、みんなで蟻を捕まえようとして取り組んでいた。

園に帰ってからは自分達で蟻の巣キットに移し替え、毎日観察を楽しんだ。朝登園してから自分たちのグループの蟻を観察する事が日課となり、「夜の間にこんなにも巣作りが進んでいる。」「大きな蟻でも働くんだな。」「小さい蟻の方が巣を作るスピードが早い!」等、日々発見したことを共有し蟻についての理解を深めていた。保育者も子ども達の発見から知る事も多く、その都度本やiPadを使って蟻について調べた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

毎日観察できる環境がとても良かった。日々変化に気が付きやすく、子ども達も日課になることで、自然と全員参加することが出来た。また、各グループ事で進み具合や蟻の動きが違いそれを比べながら観察出来る環境も良かった。今回も保育者が子ども達に何かを伝えるという事ではなく、子ども達同士で学びを共有したりすることで、意欲的に活動に参加出来たのだと思う。また、自ら体験したので記憶に残りやすく、3月に春見つけを行った際もこの時の事を思い出し話す姿が見られ、自ら考え体験する事の大切さを実感した。

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

|       |              |
|-------|--------------|
| 施設番号  | 66-0581      |
| 施設名   | 杉並の家保育園      |
| 施設所在地 | 杉並区浜田山4-31-5 |
| 法人名   | 社会福祉法人けいわ会   |

### 1. 活動のテーマ

#### <テーマ>

蟻の巣を作って、蟻の生活を体験してみよう！

#### <テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

1つ前の活動で「蟻は巣の中でどうやって生活しているのだろう」「暗くないのかな」「狭くないのかな」「目が見えなくてもどうして進めるのだろう」疑問というが子どもたちから出てきた為、このテーマを設定した。

### 2. 活動スケジュール

20分で段ボールを繋げ、蟻の巣を作る。残り30分で2グループに別れ15分ずつ蟻に成り切って、蟻の巣を体験する。10分で振り返りを行う。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

保育室の机た椅子を移動させ、広い場所を用意した。子ども達の体がギリギリ入る段ボールとガムテープを沢山用意し、全員が参加出来るようにした。また、子ども達が夢中になり予想していた時間を上回っても大丈夫なように、後ろには活動を入れず、時間にゆとりを持って行った。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

今回は「蟻の巣を作り、蟻の気持ちを体験する」事を子ども達に伝え、用意した素材や道具を紹介する。簡単に段ボールの繋ぎ方や道具の使い方を伝え、蟻の巣を作り始める。20分ほどで完成したので、2グループに分かれて蟻の巣を体験する。体験後、全員で振り返りを行った。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

蟻の巣作りでは保育者が作り方を簡単に説明するとあとは子ども達同士で声を掛け合い、完成させる姿が見られた。「こっちにテープ下さい」とテープを切る係と段ボールを持つ係に自然と役割分担を行っていたり、「この大きさの段ボール探してます。」「こっちに曲げるのはどうかな」「ここだとぶつからないよ」等子ども達同士の関わりが沢山見られた。

蟻の巣体験では、「一方通行にしないとすれ違えないよ」「暗いけど何とか進めた」「狭くても早く進めるね」等、気付いたことを話しながら楽しんでた。

振り返りでは「段ボールの家では隙間から光があったけど蟻はどうしてるんだろう」「狭いから一方通行なのかな」等疑問が沢山出てきた。講師が「その為に触覚があるんだよ」と教えてもらおうと納得していた。

夕方の自由遊びでも「段ボールの家を楽しみたい」「お家の人にも見てもらいたい」等保育者に声を掛けに来る子が多かった。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

子ども達が興味を持ち意欲的に活動すると、保育者や講師の援助は最低限で良い事が良くわかる活動だった。事前にしっかりと子どもの反応を想像しながら講師と打ち合わせ出来たことで、準備物や時間等、子ども達が満足出来るような活動を用意出来たのだと思った。

また、生き物に成り切って実際に自分で体験する事で、疑問も出てきやすく次回に繋がるようなまとめが出来た。子ども主体の活動ができ子ども達の満足した表情を沢山見る事が出来て良かった。

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

|       |              |
|-------|--------------|
| 施設番号  | 66-0581      |
| 施設名   | 杉並の家保育園      |
| 施設所在地 | 杉並区浜田山4-31-5 |
| 法人名   | 社会福祉法人けいわ会   |

### 1. 活動のテーマ

#### <テーマ>

虫眼鏡や顕微鏡の使い方を知ろう！

#### <テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

蟻やダンゴムシを観察する際に「もっと大きく見たい」と話す子がいた。その言葉を聞いた講師が虫眼鏡を用意すると子ども達が興味を示していた。これから先、生き物や草花を観察する際に道具を使うとより理解を深められる事を知ってもらおうとこのテーマを設定した。

### 2. 活動スケジュール

顕微鏡で様々な素材や生き物を観察する。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

顕微鏡1台。顕微鏡で観察する素材、プレパラート。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

顕微鏡で順番に素材や生き物を観察する。レンズの秘密について知る。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

初めて見る顕微鏡に目を輝かせる子ども達。普段観察している蟻の他にも身近な食品(醤油や塩)、毛糸等も観察した。観察して見ると普段見ている様子と違う意外な形に「塩は雪の結晶にみえる」「醤油は海苔みたいなのが見えた」と声を出して驚いていた。

活動の後半はレンズの秘密について考えた。「レンズは特別な物ではなく、身の回りの物でも代用出来る」事を伝えると「うそ！何だろう」と不思議そうにする子ども達。丸いガラス玉と筒を用意し、簡易な眼鏡を作り中を覗くと「大きくなっている」と驚いていた。また、クリアファイルに水滴を垂らし、新聞紙の上に置くと文字が大きくなって見え「すごい！水でも出来るんだ！」と大興奮だった。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

今回の活動は子ども達主体というよりも、講師の先生が進める事が多かったが、普段体験出来ない事が沢山あり、子ども達は集中して参加していた。子ども主体がと良いと言われる事が多いが、今回のように講師や保育者が進めて子ども達が楽しみながら学べる事も知った。

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

|       |                    |
|-------|--------------------|
| 施設番号  | 66-0581            |
| 施設名   | 杉並の家保育園            |
| 施設所在地 | 杉並区浜田山 4 - 3 1 - 5 |
| 法人名   | 社会福祉法人けいわ会         |

### 1. 活動のテーマ

#### <テーマ>

蟻の気持ちになって、理想の蟻の巣を作ってみよう。

#### <テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

すくわく活動を通して蟻に詳しくなった子ども達。戸外でも生き物の観察を良く行うようになり、公園では生き物を見つけて家や幼稚園を想像して作る姿が見られた。子ども達の姿を見てすくわくの活動のまとめとして理想の蟻の巣を作るテーマを設定した。

### 2. 活動スケジュール

2月 理想の蟻の巣を作る。

3月 蟻の巣を作る。発表。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

イメージした物を形に出来るよう、毛糸やビーズ、綿等の様々な素材を用意した。

また、発表ではマイクを用意し、すくわくの1年間のまとめを感じられるような環境作りを行った。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

今回は「理想の蟻の巣を作る」事を子ども達に伝え、用意した素材や道具を紹介する。まずは紙粘土で土台を作る。次にどんな部屋を作るか考える。素材を選び、ボンドで張り付けていく。完成後、みんなの前で工夫した所やこだわりのポイントを発表する。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

自分達で考えて蟻の巣を作る事を伝え、「赤ちゃんを育てる部屋を作ろう」「女王蟻の部屋もあるな」「食糧を貯めておく部屋も用意しないと」等、友達と会話する中でイメージを膨らませていた。

初めに紙粘土を配り、土台の色を決めた。子どもたちに好きな色を選ばせたが、その際に講師が「なぜその色を選んだか後で教えてね」と声を掛けると、「土の茶色にしよう」「楽しそうな雰囲気になりたいから水色にする」等、しっかりと理由を考えながらいろを 決めていた。次に、部屋を作り、色々な素材を使って完成させていった。「宝の部屋も作ろう」とキラキラのビーズを置いたり、「ここは赤ちゃんのフカフカベッドだよ」「ここはプールにするんだ」と綿を置いたりと同じ素材を用いていても子ども達によって理由は様々で、講師や保育者が声を掛けると、目を輝かせながら巣の説明をしていた。

完成後、みんなの前で作品を紹介した。マイクを用意し子ども達に紹介する事を伝え、「やりたい」と意欲的な姿が見られた。初めての発表だった為、講師がインタビュー形式で行うと、前に立ち堂々と紹介出来ていた。また、友達の紹介を聞いて、「このモールの部屋は何の部屋ですか?」「なぜこれにしたのですか?」等、自分の作品と見比べて疑問に思ったことを質問し、交流する姿が見られた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

クラスの特徴として塗り絵や製作等、手本通りに作れないと不安に感じる子が多く、回りの子の作品を見ながら完成させていく事が多い。今回は手本もなく、自由に作る事が出来たので子ども達も不安な表情を見せず、むしろ楽しんで作品を作っていた。日頃からこのような作品作りを行う事が大切だと感じた時間だった。また、子ども達が悩めるほどの素材を用意したり、じっくり考えながら作れる時間を設けることで、より想像力が膨らみ個性的な作品に仕上げられたのだと思う。

最後の発表では、自分でしっかり考えて作品を作ったからこそ、みんなに聞いて欲しいと積極的になれたのだと思う。また、子ども達が自信を持って紹介出来るよう、インタビュー形式で行ったことも良かった。